

いのち育む“水”のつながりプロジェクト(案)
 ～琵琶湖・淀川流域対策に係る今後の取組について～

令和5年9月23日

本 部 事 務 局

全ての生命の源である水を健全な状態で次世代に引き継ぎ、水がもたらす恩恵を将来にわたり享受できるよう、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる「大阪・関西万博」開催の好機を捉え、本年度から令和7年度にかけて、プロジェクトを立ち上げ、琵琶湖・淀川流域対策に係る取組を総合的に実施する。

プロジェクトⅠ：流域の現状と課題の共有（水源保全連絡会議）

- 流域府県市で構成する水源保全連絡会議において、流域における水源保全や水循環に関する対策及び将来リスク等についてマッピングを行う。
- 同会議で将来リスクへの対策等について議論し、大阪・関西万博のレガシーを生かして対応すべき長期的な課題や取組の方向性等について検討・整理する。

プロジェクトⅡ：水のつながり等の情報発信（水源保全連絡会議）

- 流域の一体性について理解が深まるよう、水循環等に関するシンポジウムを開催する。
- プロジェクトⅠのマッピング資料を基に、「2025 大阪・関西万博」(会場、ウェブサイト)において、水のつながりや将来リスク等について専門的な見地から情報発信する。

プロジェクトⅢ：住民等の参画による機運醸成（水源保全連絡会議、プラスチック対策検討会等）

- 琵琶湖・淀川水系において、他団体との連携により清掃活動を実施する。
- 学生などの若者世代が水循環等について理解を深め、社会とのつながりを持つための機会を創出する。

令和5年度～令和7年度：プロジェクトを通じて

- 流域に暮らす住民や事業者など様々な主体・世代が水によるつながりを認識。
- 貴重な共有財産である水を皆で守り継承していく機運を醸成。
- 気候変動等の影響に伴う流域の課題への対応策等について国内外に発信。

令和7年度後半以降：大阪・関西万博のレガシーを生かして

流域に関わるあらゆる主体・世代が、自主的に水を守るための行動を起こし、
環境・社会・経済の調和に向けて連携・協働する社会へ